

PAT-NO: JP402167016A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 02167016 A

TITLE: DUPLEX FLOWERPOT WITH FEED WATER PIPE

PUBN-DATE: June 27, 1990

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

FUKUDA, YOSHIMASA

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

FUKUDA YOSHIMASA

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP63320181

APPL-DATE: December 19, 1988

INT-CL (IPC): A01G009/02, A01G025/00

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain the title flowerpot capable of simple, sure, efficient, and economical water feed without the need for manpower by engaging an outer pot having at least one feed water pipe with an inner pot having water feed-

water discharge holes.

CONSTITUTION: The objective flowerpot can be obtained by engaging an outer pot 1 having at least one feed water pipe 2 with an inner pot 3 having a plurality of water feed-water discharge hole 4 with a diameter of 5-7mm so as to produce a space 5. This flowerpot can be automatically fed with water even in one's absence. These flowerpots are arranged, for example, in tiers so that hoses are connected to these pots so as to feed tap water from the lower side, the amount of the water is regulated with a flow control pipe fitted at the tip of the hoses, and excess water is discharged with a drain valve.

COPYRIGHT: (C)1990,JPO&Japio

⑫ 公開特許公報(A) 平2-167016

⑤ Int. Cl.⁵

A 01 G 9/02

25/00

識別記号

1 0 1

A

B

Z

庁内整理番号

6738-2B

6738-2B

6754-2B

⑬ 公開 平成2年(1990)6月27日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 給水管付二重式植木鉢

⑮ 特 願 昭63-320181

⑯ 出 願 昭63(1988)12月19日

⑰ 発 明 者 福 田 善 政 埼玉県与野市大戸2-18-16

⑱ 出 願 人 福 田 善 政 埼玉県与野市大戸2-18-16

明 細 書

1. 発明の名称 給水管付二重式植木鉢

2. 特許請求の範囲

一個以上の給水管(2)を有する外鉢(1)に給水排水孔(4)を有する内鉢(3)をはめ込むことを特徴とした給水管付二重式植木鉢。

3. 発明の詳細な説明

イ. 利用分野

本発明は、多数の鉢物に簡単に確実に、効率的に、しかも経済的に給水が出来るように改良した給水管付二重式植木鉢(以下植木鉢)に関する。

ロ. 従来の方法

鉢物への給水、俗に言う水やりは、水やり三年と言う言葉が示すように、単に給水をするだけではなく、鉢内にたまつた有害ガスを給水によって追い出し、新鮮な空気を入れて根の呼吸を活性化させるなど、植物の成長を促すために大変重要な意味を持っている。しかし根が成長するにつれて用土が固くなる鉢物に対して、従

来の様にジョーロで上から水を与える方法では多くの欠点があった。すなわち、

- i. 流れるほど給水しても、用土のごく表面にのみ浸みるだけで、大部分は鉢外に流出し、不経済な上に用土内の有害ガスも排出出来ず、これを行なうためには多大な時間を必要とした。
- ii. サツキなどの場合、開花時の花に水滴が付くと花が腐ったり、きたなくなるため、ジョーロによる給水は出来ず、水をはったタライなどに一鉢ずつひたして給水しなければならず、非常に大変な仕事であった。
- iii. 夏期には朝夕二回の給水が不可欠であるため常に留守にすることが出来なかった。また、冬期の給水を怠れると、ドライフラワーのごとく葉が青々とした状態を枯れてしまうことが多く春になって、初めて高価な盆栽の立枯れに気付くことが少なくなかった。

ハ. 発明の目的

本発明の目的は、上記欠点を改善し、熟練者でなくとも、簡単に、経済的に、効率良く、さらに

留守中でも鉢物への給水を可能にする植木鉢を提供することにある。

二. 発明の構成

- i. 一個以上の給水管(2)を有する外鉢(1)を設ける。この外鉢は内鉢の用土に給水するために一時的に水を留めておくためのものである。
- ii. 給水排水孔(4)を有し、外鉢(1)と内鉢(3)との間に空間(5)が出来るようにした内鉢を設ける。外鉢と内鉢との縁(6)はやや固目のハメ合い構造にして、ここからの水もれを防止する。
- iii. 内鉢(3)を外鉢(1)にハメ込んで、給水管の付いた二重構造の植木鉢とする。

今、この植木鉢を使うには、これを蛇口より高所に置き、給水管(2)の一方を蛇口につなぎ、他方に短いホースを付けて、その開口部を植木鉢の縁(6)よりやや高くする。水量は水がホースの開口部よりわずかに流出する程度に調節する。水は空間(5)と給水排水孔(4)を過って用土内に入り、内部の有害ガスを完全に追い出すと共に用土全体に浸透する。水が十分に浸透した後、蛇口からホースを

外せば、用土内及び内鉢と外鉢の空間(5)の過剰な水は全て排出され、同時に新鮮な空気がこれら相方に入り、根の呼吸に極めて有効に作用する。

ホ. 本発明の実施例

本発明の植木鉢を高この異なったヒナ段で使用する場合には、第2図のごとく、低い方から水道水を給水するようにホースをつなぎ、前述のごとく最後の植木鉢に付けた流量調節管(7)より、わずかに水が流れ出る程度に水量を調節する。

給水終了後は、ホースを蛇口から外すか、排水用バルブ(8)を開ければ過剰な水は全て排出される。

本例では上段下段の植木鉢を直列につないだが各段を並列にしても効果は同様である。

内鉢の給水排水孔(4)は5〜7ミリメートル径を数センチメートル間隔に設け、内鉢内面には多数の細い溝を設けた方が根の成長には好ましい結果を得た。

本発明の植木鉢を工業的に生産する場合、外鉢の大きさを同じにして、内鉢の容積だけを変えることも可能であり、外鉢用金型は一種類で済むた

め経済的な設計が可能である。

ヘ. 発明の効果

本発明の植木鉢に給水するには、前述の通り水量を調節して、ある時間後に過剰な水を排出するだけで良く、もはや「水やり三年」の熟練者でなくても完璧で能率的な給水が可能となった。さらに、水のムラが少なく経済的であり、しかもワツキなどの開花中と言えども花に水がかからず、花をいためる心配が皆無となった。さらに、24時間タイマーと水道局で認可された自動バルブ及び排水バルブを組合わせることにより、仕様の時間に自動給排水が容易となり、省力化のみならず、留守中でも鉢物を枯す心配がなく、ほぼ理想的な給水が可能となった。

これら多くの効果は、従来のジョーロや、用土の上に細いパイプを固定して給水する方法では到底期待できず、本発明によって初めて可能になった。特に、留守にしがちな家や、人手不足の下で大量の鉢物を扱う鉢物業者にとっては極めて有効な植木鉢である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の正面図及び断面図である。

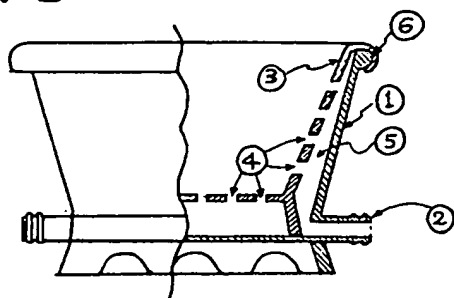
第2図は本発明の使用例で、高この異なったヒナ段にきて、給水ホースを直列につないだ例を示している。

なお、図面上の番号に於て、

- 1 外鉢
 - 2 外鉢に設けた給水管
 - 3 内鉢
 - 4 内鉢に設けた給水排水孔
 - 5 外鉢と内鉢との間に出来た空間
 - 6 外鉢と内鉢とのハメ合った縁
 - 7 流量調節管
 - 8 排水用バルブ
- である。

特許出願人 福田 善 政

第1回



第2回

